

令和7年度 第2回芦屋市立美術博物館協議会 会議録

日 時	令和8年2月6日（金） 15：00～17：00
場 所	芦屋市立美術博物館 講義室
出 席 者	<p>会 長 岡 泰正  副会長 飯尾 由貴子  委 員 鈴木 敬二  委 員 梶本 和男  委 員 溝口 正  委 員 若林 七奈美  委 員 安部 太一郎  委 員 藤山 哲朗</p> <p>（芦屋市立美術博物館指定管理者）  学芸員 川原 吉貴  学芸員 大槻 晃実  学芸員 川原 百合恵  谷崎潤一郎記念館館長 砂田 円  株式会社小学館集英社プロダクション 今宮 彩夏  グローバルコミュニティ株式会社 鈴木 裕也  グローバルコミュニティ株式会社 浅倉 英風</p> <p>（事務局）  国際文化推進室長 田嶋 修  国際文化推進課係長 中村 達也  国際文化推進課主査 竹村 忠洋</p>
事 務 局	国際文化推進課
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

（1）議題

- 1）展示状況について
- 2）令和8年度事業計画（概要）について

（2）その他

## 2 提出資料

会議次第

委員名簿

資料1 2026年度（令和8年度）事業計画書 概要

資料2 2026年度 展覧会 概略

資料3 2026年度 展覧会（予定）

## 3 議題報告

（岡会長）

それでは議題（1）－1）展示状況についてということで、今浮世絵展が行われていますので、そのご説明を事務局お願いします。

（事務局：中村係長）

それでは説明につきましては展示室にご移動して、実際に観ていただきながら、美術博物館の川原吉貴学芸員がご説明をさせていただきますので、移動をよろしく願いいたします。

<美術博物館 川原吉貴学芸員が浮世絵展について、展示を観ながら説明>

（岡会長）

ご説明ありがとうございました。

そうしましたら展示を拝見いたしましたので、ご説明もいただきましたので、現状実際観ての意見をお伺いしたいと思います。一言だけでもいいので、どうぞ、藤山委員いかかがですか。

（藤山委員）

僕自身はなかなかこういう展覧会を観に行く機会が多くなかったのですが、改めてこうやってみると、いろいろ発見があったなという感じがします。特に私が面白かったのは、これは、専門の方はもう当然ご存じのことかもしれませんが、やっぱり絵画の中に絵と、それから、今日面白いと思ったのが、背景の中にまた絵が書いてあったりとか、それから言葉も入っていたり、そういう色々なメディアに重複しているような表現が、自由にされているというのは、とても興味深いと感じました。

（安部委員）

解説ありがとうございました。まず多くの作品がある中で、女性が多く描かれていて、そのポーズとか、着物の模様など、生活の様子ができるのがすごく面白かったと思います。子どもの観点で観てみたら、例えば、この女性同士が向かい合って何か話している。そこにセリフを入れたら面白いのじゃないかなとか、どんな会話しているかな、子どもたちをもし連れてきて観るなら、そういう鑑賞の仕方もあるんじゃないかと感じました。あと雷の稲妻が外から入ってきて、部屋の中に逃げ込んでいる絵とか、稲妻の線の描き方が面白いし、あと団扇を手動の扇風機にしているところ、現在に繋がるような、昔の人も工夫しているのだなと思い面白かったです。もし子どもたちと観ることがあれば、そういうところをよく発見して、内容をみんなで共有できたりしたのかなと思います。ありがとうございました。

(溝口委員)

私もじっくり初めて見せていただいて、とてもよかったですと思いました。あと1個1個にきちんと説明文がついていて、それを横に見ながら、絵を鑑賞するのは、とても良かったかと思います。子どもの目線から提案させていただきますと、説明文に振り仮名、ルビが付いていたらより理解が進むのではないかと思います。

(若林委員)

私もあんまり観ることがないので、近くで観たらすごいタッチがすごく繊細で、昔の人は、今みたいに細いペンがある時代でない中で、ああいうタッチが出るのは、すごいなと思いました。先ほどもルビの話が出ていましたが、漢字が多いので、横にふりがなを書いています。どこで区切っていいか自分でもわからなくなる。それが子どもだと尚更なので、以前に小さいから読みづらいという話もありましたが、やはり漢字の上で書いている方がわかり易いと思いました。

(梶本委員)

今まで写真や雑誌の本に載っている浮世絵は観たことがありますが、本物の浮世絵を観るのは初めてです。200年ぐらい前に描かれたものらしいですが、絵の色が全然変わっていないし、色褪せていないように思います。着物の柄一つ一つがものすごく細かく繊細なタッチで描かれていました。もう一つは、富士山の絵が2枚程描かれていまして、どちらもすらっとした格好で、宝永山ないんですね。宝永の大噴火で出来た宝永山、宝永の大噴火起こる前に書かれた富士山なんだなーと。

(岡委員)

それは、噴火の後を表現されたものです。実写ではありませんので。

(梶本委員)

実写ではないんですね。また後で年代を調べてみます。

(鈴木委員)

3点あります。1点目は、私の専門は、考古学で、浮世絵はすごく好きですが、考古学の間人なので、掘って出てきたものが、浮世絵の場面に出ているという目線で観てしまいます。こうして使っていたのかと観てしまいます。それがすごく面白かったです。企画によっては、美術と考古のコラボで、出てきた物と浮世絵を並べて展示するのも有りかなと思ひまして、ただ来館者の数が稼げる展示になるかどうかはわかりませんが、資料1にある美術部門と博物館部門の共存に繋がるのではないかと思います。2点目は技術的なことになります。スポットライトが、絵に当たってない部分があつて、ライトの数を数えたら、十分足りていましたが、あれは、照度管理のために、わざとずらしているのですか。観る上で、少し気になる点になりました。3点目は、ロビーに展示されていた絵に関しまして、あそこは紫外線が結構入ってくると思われまふ。保存の観点から、作品の展示替えは、どうされているのかとか、気を使われているのかと気になりました。

(岡会長)

12月6日から2月8日まで会期は長いですが、陳列替えはありませんでしたよ。

(川原吉貴学芸員)

はい。2点目にご指摘があったスポットライトが絵に当たっていないというのは、この絵の保存のために、あえて絵に直接当てないように、工夫した結果であります。3点目のロビーの絵に紫外線が当たるという問題もありますが、そういうことも考慮いたしまして、当初の位置よりは、太陽の光が当たりにくい壁面に、絵を移動させております。その対策をした上で、今回、このような展示の順番になりました。スポットライトの配置についても、そのような観点から配置しました。来館者のアンケートの中で、やはり絵が暗いのではないかとのご指摘も多々ありましたが、それについては1階のホールで改めて作品保護のために照明を暗くしているという、お断りをした上で、あえて絵に当てないように配置をしたという結果であります。

(鈴木委員)

調光で何とかするという事は難しかったんですか？器具の調光で。

(川原吉貴学芸員)

そういうこともしてはいましたが、それは、展示業者の方と試行錯誤した上で、やはり直接絵に当ててしまいますと、60ルクスを超えてしまうということがありますので、また他館での展示なども見た上で、やはり直接絵に当てている美術館ほとんどありませんので、やはり、絵の上部とか絵と絵の間に当てるのが最も適しているだろうということ、1つ1つ1点1点、ルクスを測った上で、あのような配置したものであります。

(飯尾委員)

まず、このような寄託品がある事を存じ上げませんで、寄託品を活用した展覧会という事で、美術館の一つのあるべき姿であろうと思います。ご説明ありがとうございました。あと、展示の解説も適切な分量で読みやすかったし、一つ一つ丁寧に解説されていて、非常に充実した内容であったと思います。一つ気になりましたのが、キャプションです。少ししわが寄っていた所がありましたので、その辺り留意されると、より緊張感のある展示になったのではないかと思います。

(岡会長)

私も神戸市立博物館では、浮世絵を担当しておりましたので、浮世絵の専門でもあります。良いところは、キャプションが大きいのが良いですが、印刷して、プラスチックに貼れとは言いませんが、もう少し固い紙に印刷出来なかったのか、直接貼られているので、どうしてもキャプションにしわがよってしまふ。それからルビの問題です。あれは田舎源氏、源氏絵と言いますが、源氏絵のタイトルそのままルビをふっても、読めるけど、意味はわからないと思います。すごく浮世絵のタイトルは難しいです。専門の人よりも、どういうふうに見せたらいいのかというのは、我々も正解はなく、浮世絵師の名前にしても、三代豊国と言いますが、本人は、浮世絵の中に二代豊国と描いてありましたし、細かな知識がないとなかなか、浮世絵を本当に理解するのは難しい。特に源氏絵は難しいです。合巻（ごうかん）という絵入りの挿し絵本ですが、修紫田舎源氏という源氏絵が今回割とメインのものが多かったので、そこは、説明はございましたが、あれが生活か風俗というのと、なかなか難しく、一種の理想の世界というか、高級武家の将軍家を当て込んだような、家斉を当て込んだようなものです。それと、遊女を分けられて、吉原の風景、場面とかで区別されていて、意識して、出来るだけ伝えようという気持ちはよくわかりましたので、それはよろしいかと思っております。立派な展示だと思えます。ただ、四隅に三角が出てくるのは何ですか。あれは元々そうになっているんですか。

(川原吉貴学芸員)

あれは3枚続を額装する際に、どうしてもマットの窓を四角く開けておりますけど、そこから、そのままですと、なかなか浮世絵の大きさというのが微妙に小さかったり、大きかったりするので、小さい浮世絵を入れる場合はそこからバツとはがれてしまう恐れがありましたので、それを補強するために、紙に三角のコーナーシールを活用して、それが剥がれてこないようにしている。でもそれについては非常に、もう少し最初からその大きさを考えて、マットに枠をもう一つくっつけて、つけておく。1枚にくり抜くのではなく柱となる枠をつければよかったですと思いますが、額装していく段階で、それに気づいてしまったので、そこは自分なりにこれどうにか出来ないかと考えて作りました。

(岡会長)

最近の傾向は、実際にマットを入れない。3枚続は、浮世絵そのもの3枚の大きさが違うように、きちんと合いません。しかしあれを1枚に1枚の、つまり、マットを全くつけないという方法が出てきます。中之島美術館はそれをやり始めています。だから陳列方法としてはいろいろ進化しているので、もし次があれば、直にアクリルに当てろと言っているのではなく、正面の留め方なのか、裏からの留め方なのか、少なくとも三角の部分が画面に出てくるのが、少し残念です。やはり存在する面積はある程度見せたいと思っています。画面を切ることになるので、聞いてみようと思っておりました。新聞の広告というか広報で、やっぱり三枚続きの女性が立っている写真が、等身が出ましたが、あれっと思いました。四隅が切れているから。ちょっと陳列でまた工夫ができるのであれば、工夫していただけたらと思います。

何しても、ご寄託品らしいですが、浮世絵が海外に流出したというような雰囲気もよくわかりますし、トランクがあることで。実際に集めたのは、エジプトですか。どこで買っているんですか。

(川原吉貴学芸員)

実際にどのようにして、どこで、いつ、いくらで買ったかという記録類が残されていないので、なかなか難しいところです。

(岡会長)

見る人が見たら、中東で買っているように見えます。ああいう写真があったりしたら。

(川原吉貴学芸員)

トランクの中に保管されたということで展示しています。

(岡会長)

はい、わかりました。ありがとうございました。

それでは議題(1)－(2) 令和8年度事業計画(概要)についてを事務局説明をお願いします。

(事務局：中村係長)

それでは資料を基に、説明を当芦屋市の美術博物館の担当者よりご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

<令和8年度の各展覧会について、美術博物館各担当学芸員が説明>

(岡会長)

ありがとうございました。

来年度の展覧会について、ご意見をお願いいたします。

(飯尾委員)

学芸員3名で、博物館実習とかトライやるも対応され、尚且つ年間5本の展覧会を企画され、大変忙しいと思いますが、教育普及事業、展覧事業、コレクション研究など全方位的に取り組まれていることに敬意を表します。展覧会においても、収蔵品の紹介から、おそらく多くの方が来られるであろう絵本の展覧会、人気の浮世絵展、恒例の造形教育展、本家本元の具体の展覧会など非常に充実した構成になっていると思います。特に夏の絵本の企画に関しては、西宮とも連携されるとか、学校と連携も計画されるという事で、非常に楽しみです。具体は本当に定番で、芦屋の美術博物館といえば、具体的なので、さらに研究を深められて、充実した展示になると思いますし、春のコレクション展も期待しています。

(鈴木委員)

美術博物館のコンテンツの事とマネジメントのことを1点ずつ伺いたします。まずコンテンツの事で、展覧会の内容につきまして、私は歴史分野から発言することが、求められていると思いますので、あえて申し上げますと、展覧会の構成に今年度歴史的なものが入っておりませんので、私の立場から少し残念だなと思います。でも今後また入ってくると思って期待をしています。展覧会も内容、テーマもさることながら、先ほどお話伺いまして、ちょっとショッキングとか良い意味でショッキングなのが、一つ目の新収蔵・初公開作品の展覧会に関しまして、コレクションを展示するとともに、その収蔵庫問題とか、現在博物館が抱えている厳しい現状を市民の方に問うというようなことを考えていらっしゃるというのが、非常に意欲的で、逆に私たちは、博物館でなかなかそこまでする余地がないというのが現実でして、そこは非常に意欲的な取り組みで、ぜひ期待したいと思います。市民の皆様、博物館美術館を好きな方は、博物館のコンテンツには非常に強い関心を持っていただいています。実際の運営マネジメントについて、そこまで、ご覧になろうという方はなかなかいらっしゃらない。そういう状況の中で、博物館の置かれている厳しい現状を伝えることに関しては、意欲的で良い取り組みであると思うし、すごく期待したいと思います。夏の展覧会につきましては、西宮とコラボされる、それで展覧会を巡る楽しみを演出していくということで、これもぜひお手本にさせていただきたいと思っておりますので、頑張ってお手本にさせていただきたいと思っております。コンテンツについては、以上です。

次にマネジメントと言ってもそんな大袈裟な事ではありません。4番の館蔵品の調査研究につきまして、各収蔵品の適切な管理をするために、市と相談をして取り組まれると書いてあります。色々な事に取り組まれて、最終的に市と相談の上、共通の達成目標を達成すると書かれていますが、この共通達成目標は、どのようなものでしょうか。一言で説明するのは、難しいですが、ある程度一定の目標があって、その達成度を評価していくようなものでしょうか。その達成度の評価が、設置者である芦屋市様と管理者である小学館集英社プロダクション共同体様が一緒に、取り組んで、一緒に達成度評価する。そして、指定管理の業務の評価に繋がっていくというような性質のものでしょうか。そういったようなことも少し参考に教えていただければ幸いです。

(事務局：田嶋室長)

本市といたしましては、美術博物館自体が市民の方に、来ていただいて見ていただくというのがこれは一番大きいことだと思っています。そういった意味では、まず来館者数を増やすというのはもちろんですけど、今、収蔵品は、毎年増えてきていますのでその収蔵品を見ていただくというのも大きな目標だと思っております。その中で、毎年収蔵品を見ていただいて、市民の方に還元している、この市民の財産でありますので、収蔵品の展示と来館者数とのバランスが重要と考えています。

(鈴木委員)

現実的な問題としまして、例えば開館以来、未整理資料の管理改善などと書かれていて、収蔵品台帳の整備を引き続き行い、未整理資料の管理改善を行うと書いています。芦屋市の収容されている収蔵品で、整理がまだ終わっていないものの、整理といったようなことも、指定管理をされている小学館集英社プロダクション共同体の方が、そこも担って、芦屋市の市民の財産を、指定管理者が、代わりになって整理をしていく。それに達成目標が定められているというようなことか、そこまで踏み込んだものでは、ないのでしょうか。

(事務局：田嶋室長)

その件につきましては、指定管理の仕様書の中で、どこまで書くのかは、前にもお諮りして、ご意見をいただと思います。デジタルアーカイブについては全国的に著作権の問題があり、本市も含めて進めていくのが難しいところです。その他の管理台帳も含めて、資料の整理をもとめているところです。

(鈴木委員)

博物館の業務で本当に集客以外に様々取り組むべきことがあって、様々取り組むべき課題に対して評価されるべきだという考え方を私は持っております。単に集客だけで評価されるものではないと考えております。その集客以外の評価指標が、例えば、こういった所が使われているのかと思って伺いました。

(岡会長)

ありがとうございます。それは本当に専門家の意見で、運営者の立場から考えるというような意見でございましたがそれも必要かと思えます。

(梶本委員)

資料3で2026年度の展覧会の予定が載っています。これ展覧会についての、市民の皆さんに伝えるチラシというのは、我々、芦屋川カレッジの学友会は、市民センターで、いろんな講習を受けたり、何か催しがあったりしたときに、市民センターによく行きます。そのロビーに、各市内の色々な所の施設の催し物とかのチラシを置いています。美術博物館につきましてもそちらの方へ、どんどん置いてもらって、PRをもう少し、より身近に感じられるようなチラシなり、配布の仕方を考えてもらったらどうかと思います。

(岡会長)

ありがとうございます。とにかく宣伝という新年度の4月以降の展覧会、来年度、またがるわけですね。それは、議会の承認を経て出せるようになったら、告知を考えてねということでございます。お金がなくて印刷ができなかったらネットで出すとかですね。もっとこのことをもう少しわかりやすく画像を入れて、出していただいたらいいかと思えます。

(若林委員)

チェコ絵本の作り方西宮のコラボで、両方行ったら、割引がつくとかステッカーがというお話があったので、私はそういうのはすごく集客的にはすごくいい案だなと思えました。図書館とコラボするというのがありますが、そういう中で、スタンプカードを作ってオリエンテーションみたいなことをするか、そういうちょっと面白い、みんなが楽しめるようなことをして、集客につなげていくというのも1つの手なのかなと思えます。

(溝口委員)

個人的にも小学校の保護者としても、2番の絵本はとても楽しみなので、また来させていただきたいと思います。資料1の2番の個人情報保護と書かれています、これを具体的にいうと、例えば小学校から子どもの作品が、選ばれたやつが代表として展示とかされますよね、そういうときにその子どもの名前を伏せることを含むという意味ですか。

(大槻学芸員)

私が発言していいのかわかりませんが、今度造形教育展が開催される予定で毎年行っている幼稚園小学校中学校の生徒さんの作品を展示していただいています、その下には作者ということでお子さんの名前が載っているんですけども、一応、学校の先生や学校教育課の方と一緒に協力しながらやっている展示ですが、今のところお名前は伏せることがないですけども、こちらとしての撮影ポリシーですね、美術博物館から提示している撮影ポリシーとしては、お子さんの保護者の方しかこの作品は撮れませんということを徹底させていただいています。なので、色々な方が見ることはご来場いただいたらその作品の作者の名前がわかりますが、撮った写真が保護者以外の方がSNS等でアップするとか、そういったことは行わないように、ご案内させていただいたり、そういった表での対応ということでの1つの例なんですけれども、ここで個人情報の保護のことを書かせていただいているのは、個人情報保護法に基づいた研修を私たちが受けて、それで、当館で扱っているのがイベントの申込者のお名前であったりとかそういったリスト化されているものが、当たり前のことですけどもプリントアウトしたものを机に置いておくとかそういうことはせずに、データも外部の人が見られるようなものではなく、館内の者しかアクセスできないような所にデータを置いておくとか、そういったことをしています。

(溝口委員)

造形教育展での展示の仕方と、SNSの対策、撮影については、十分理解しました。

(安部委員)

教育普及事業のところですけども、今年、今年度も、大槻さんと川原さんに精道小学校にお越しいただいて、ゲストティーチャーとして授業をしていただきました。この前の12月です。4年生で、精道ようこそプランで図工展に飾る横断幕みたいなのを子どもたちと一緒に作成させていただきました。川原さんには美博の絵の続きということで、山崎隆夫さんと吉原治良さんの絵を子どもたちと鑑賞した後にその絵の続きを考えてみようということで、お2人に授業をしていただきました。先週ですけども図工展がありまして、図工展でその作品も展示をしております。来年度も引き続き継続をお願いしたいなと考えております。それから展覧会の来年のチェコ絵本の作り方で、大谷記念美術館とコラボということでも楽しみです。先生向けの鑑賞の研修の話もありましたので、ぜひぜひそういう機会はあまりないので、積極的に先生方に参加していただくように私も声かけようと思います。あと、子どもたちが、年間通して行ってみたいと思うような展覧会のPRを、先ほどチラシとかいろんな話出しましたが、子どもが行きたいなと思ったらやっぱり子どもだけでは行けないので、おうちの人も一緒にこられますので、やっぱり人がたくさん足は運ぶということに繋がると思うので、そのPRもまた色々工夫していただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(藤山委員)

僕も絵本はすごく楽しみで、前々から思っていたんですけども、やっぱりここは、図書館があつて、谷崎があつて、美術館があるという立地を最大に生かしたそういう絵本だけであつて、本に関係するような展覧会っていうのは、館の特徴になるかと思っていますし、特に小学館集英社の、ちょっと関係があればもっとより面白い企画ができるんじゃないかと期待しているので、またこれがなんかレギュラーになっていくといいんじゃないかなというふうには、思っています。具体の方も今年度やった展覧会がとてもよかったので、また、そこからどう発展していくのかというところは、すごく楽しみにしているところです。あと1個お聞きしようと思ったのが、1年前にもらった年間スケジュールだとこの3月に市民の公募展があると、それは多分今年はあると思いますが、来年度とはそれはないということになったんですか。

(事務局：田嶋室長)

2年に1回です。

(藤山委員)

わかりました。

(岡会長)

ありがとうございました。

一通り言葉をいただきましたけれども、私が揚げ足とるようで申し訳ないですが、2026年の展覧会概略のところですが、直せるので全然問題ないんですが、その幕末の風景画家の双璧として知られる歌川広重の葛飾北斎、ここで私ちょっと、北斎と広重は年代が違うので世代も違うので、ましてや北斎の画業は幕末にははまらない。幕末をどうとるかということでございますが、江戸後期のまあ、風景画家と北斎を入れるのっていう、広重は言ってもいいかなというところですが、ですから、我々の業界の中では、もう広重名所、名所絵師ですよ、国貞役者、国芳武者（むしゃ）ということでございまして、名所絵、役者絵、武者絵ということで分類されますので、北斎が風景画家かという富嶽三十六景けれども、森羅万象を描いているので、もうここで幕末の風景家の双璧というのは、むしろ五雲亭貞秀とか、そういう絵師じゃないかと思うぐらいで、ちょっとここら辺はもっと目配りをされたらいいと、文章をちょっと変えられるとか、もっと良く練られたら良いかなと思いました。それから圧倒的なデッサン力というものも引っかけますので、少し文章を考えられたらいいと思います。それで、催しが2ヶ月半ですよ。10月24日から1月19日。これだけの長さで陳列替えもしないで大丈夫ですか。

(川原吉貴学芸員)

陳列替えはすると思います。それはちょっと考えておりますので、具体的にどれぐらいするかというのは、これから詰めていきます。

(岡会長)

本当にそれをすると2セットいりますからね。

(川原吉貴学芸員)

企画会社と検討していきたいと思います。

(岡会長)

どっちでも50ルクス以下になると見えなくなるので、暗くすると言っても、限界があるからね。

(川原学芸員)

展示会のことも企画会社と検討していきたいと思います。

(岡会長)

神谷さんがするのだから、それで、おわかりだと思います。

それで具体美術というものを取り上げられるということと、それから小出檜重などはこの4月ですね、新年度からの展覧会ということですが、ここの谷崎潤一郎との関連は全くここに入ってこないということですかね。谷崎さんは谷崎さんで別に企画をやられるということですか。

(谷崎潤一郎記念館：砂田館長)

そうです。

はい、別にやっております。

(岡会長)

広報も全く別ですか？

(谷崎潤一郎記念館：砂田館長)

広報も別にやっております。

(岡会長)

そうなんですね。一緒にやれるものだったら一緒にやったらいいと私は思います。これ横の建物だから、同じグループの指定管理ですよ。せつかくだったら、両方で何かこうできるように考えられたらいいなと私は思うんですけども。競合する相手でもないし、だから何か、つまりこれはコラボしなさいというわけではありません。絶対それはもう違うと思いますが、何かこう手段なんかでも一緒にやれないかなあと思って。一緒にここを観たら、ここも観れるとかやれないのかな。というのは我々六甲アイランドにありますから、3館ファッション美術館とゆかり美術館、小磯記念美術館、3館の共通チケット、これ当たり前ですけど、何かお互い発信するときに、今一緒にやろうとか、共催するとかというふうなことで、何か共生が立てられないかと、逆に言うと芦屋の図書館でポローニヤなんかをやる時はですね、一緒に何か出来ないかと、図書館の司書の方が読み聞かせをしてくるか、何か出来ないかと、こちらの学芸員が、図書館に行って講演をしてくるか、そんなことをされたら良いんじゃないかと思えます。というかずっと我々が図書館と協力して、神戸の絵本の展覧会をしましたので、ずっとそういうことを市長から言ってくるんですよ。だからそれに答えるという。そして市長がオープニングに来る。

(大槻学芸員)

チェコ絵本の時は、2016年と2018年は、それぞれ図書館の方に読み聞かせに来ていただいたり、2018年は図書館でチャペック兄弟と子どもの世界になぞらえて、展示をしていただいたり、総合教育ということで、やっていただいております。今回は、2026年チェコ絵本の作り方の時も司書の方に来ていただいて、読み聞かせしていただけないかと考えております。それと谷崎潤一郎記念館との協力のアドバイスいただいた中で、展覧会ではありませんが、教育普及事業で、明日行うものがありまして、谷崎潤一郎の『乱菊物語』をよむ／みる／きく 挿し絵をとことん楽しむ」という催しで、谷崎潤一郎記念館の学芸員と、当館学芸員が対談を予定しておりまして、展覧会を一緒にやるのは難しいところがありますが、前向きに色々相談しながら進めていくところです。

(岡会長)

お互いフックがね。あればということです。それで私なんか全然気づかないですけど、うちの学芸員が、小磯良平の日本髪の子というのを、韓国国立中央博物館から里帰りというのをやっているんですが、それをね、うちの学芸員がデザイナーの人と、対談みたいなのを、1時間だけですけどね、デザイナーを呼んできて、どういうコンセプトで、チラシを作ったかとかを、しゃべらせるということをやりました。私はそんな事は全く表に出さないことだろうと思っていたので、デザイナーの人もしゃべって、こういうつもりでやると、ゴシックでやるとちょっと気の強い女の人になるから、明朝にしましたとかみたいな話をしていて、私は全くもう聞いただけだったんですけども、我々の発想で見ると、すごい内輪の話みたいなのをむしろ、一般の方が面白いと思ってくださるということですね。そういう視点というのは、なかなか気づかないので、図書館の人が美術館を見る、美術館の人間が図書館を見る、谷崎潤一郎記念館を見るとかですね、そういうふうな自由な発想で若い方がやられたら、むしろ、ただの難しい勉強の講演よりも面白いかもしれないとかですね。そんな風穴をあけられたらというふうに思います。

(小学館集英社プロダクション 今宮さん)

どうもありがとうございます。

ご意見いただいて、おっしゃっていただいた通り、同じ業態で谷崎純一郎記念館と芦屋市立美術博物館運営させていただいておりますので、本当にコラボして一緒に相互協力っていうところは、大きな題目かなというふうに思っております。その上でこちらの7番8番に記載させていただいております文化ゾーンの3館連携イベント、niwa-dokuの実施や、あとは自主事業で行わせていただいておりますART MARKETに関しましては、やはりこういった美術館、谷崎潤一郎記念館記念館に来たことない方がぶらっと立ち寄っていただけるようなフックとして、実施させていただいているコラボの事業になっておりますので、引き続きやっぱり展覧会というところの大きなコラボレーションというのはなかなかちょっとハードルが高い部分ではあるんですが、できる限りやはり相互協力させていただきながら、より多くの方にご興味を持っていただけるようなイベントとかを引き続き検討していきたいなと思っておりますので、ぜひまたご意見等いただければ幸いです。ありがとうございます。

(岡会長)

いろんなことを申しましたが、今はしゃべっていることでも何か思いつかれたことで、まだちょっと時間がございますので、ご意見いただきたいと思っております。

(藤山委員)

さっき言い忘れた。前も言ったんですけど、これぜひやってもらいたい。絵本展の時に他でもやっているぬいぐるみのお泊まり会とか、やってもらったら楽しいなと思います。

(鈴木委員)

ぬい活と言いますよね。

(藤山委員)

そうです。ぬいぐるみを子どもたちが持ってきて、それが絵を観ているところを写真に撮って、展示してくれるとか。ぬいぐるみたちが、絵を観に行くとかみたいな。

(大槻学芸員)

大人気です。

ぬいぐるみを預けて、ぬいぐるみが観ているように写真を撮る。

(岡会長)

ぬいぐるみが泊まるんですか。

やっている美術館あるんですか。ぬいぐるみを預かって、持ち主が絵を観ているように、写真を撮って？  
こちらが？

(飯尾委員)

やりたいと思っているんですけど。

(岡会長)

やりたいと思っているのですか。

(鈴木委員)

全国的な流れです。

(大槻学芸員)

たぶん子どもたちを林間学校に行ってもらって、写真を撮って、夏の思い出みたいなのを楽しむというのが、子どもが持っているぬいぐるみは自分の子どもみたいな感じで預けて、その子どもたちが遊んでいる風景をこちらが写真撮ってあげる。夏の思い出とか、そういうものです。

(鈴木委員)

ぬいぐるみを子どもに見立てて、子どもを林間学校に送り出す保護者の気持ちになろうという。

(大槻学芸員)

昔、子どもが本当に泊まったりしたことがあった。水族館に泊まったりとか、ただちょっとそのハードルがかなり高いので。

(岡会長)

子どもの体調が心配です。

(大槻学芸員)

費用もすごく高くなる。保険をかけたりとか。なので、そういったぬいぐるみに疑似体験をということですかね。

(梶本委員)

良い発想ですね。

(岡会長)

ありがとうございました。

他にありませんか。では、事務局にお返しします。

(事務局：中村係長)

次回の開催ですが、令和8年度の開催を予定しています。また日程等決まりましたら、正式ご案内させていただきますので、まず本日の会議内容につきましては、議事録を事務局で作成後、委員の皆様にご確認をいただき、ホームページでアップしますので、また確認の際には、ご協力よろしく願いいたします。

以上をもちまして、本日の協議会を終了いたします。

ありがとうございました。

閉会